

新 春
座談会

推進技術の海外進出に向けて ～コンサルタント編～



ベトナム・ハノイの交通の状況

民主党政権が3年目を迎え、政権交代当初より進める原子力発電、新幹線、水ビジネスの海外進出3分野のうち、水インフラ事業については、ベトナムやインドネシア、インドなどを対象国として、政府高官レベルでの基本協議が着実に進められ、その成果も見えつつあります。

水インフラ事業には、上水道とともに下水道整備が含まれます。今後、こ

れらのプロジェクトが我国の推進業界の大いなる活躍の舞台となりうるか、否かは、これに関する基本構想の検討・策定（Feasibility Study以下、FS）段階において、推進工法の採用を十分に意図したものであるか、否かに因ります。

今回は、日本政府のODA事業の一貫として、ベトナムなど東南アジアの国を対象に、FS業務を進めている

コンサルタント3社から担当幹部の方と、現在、（独）国際協力機構（以下、JICA）からオリックス㈱に出向され、実務として海外進出業務を指揮されている山本賢一さんにお集まりいただきました。

FS業務を受注するまでの経緯、策定業務過程での苦労話、策定成果を納入した後のフォローのあり方、そのなかで推進工法の評価と期待感などについて、お話を聞かせいただくことにしました。なお、山本さんには、現にプロジェクトを進めていく立場からの課題やJICAから見たFS策定上の課題、その業務に携わる日本コンサルタントへの要望などもお話しいたします。

出席者（敬称略）

金井 重夫：日本水工設計㈱取締役東京支店事業部部長

井上弥九郎：日本工営㈱コンサルタント海外事業本部環境事業部技師長

田中 郁夫：㈱日水コン海外事業部担当部長

山本 賢一：オリックス㈱水事業プロジェクトマネージングディレクター

〔進行役〕石川 和秀：（公社）日本推進技術協会専務理事

基本構想 (FS) の策定で大きく左右される

いしかわ かずひで
石川 和秀
(公社)日本推進技術協会
専務理事



FSの策定で大きく左右される

石川：本日は、JICAからのODA事業の一環として、主に、東南アジアを対象に下水道整備にかかる基本構想策定(FS)業務を受注され、進行中のコンサルタントから中心幹部の方3名と、現在、オリックスにJICAから出向され、実際に海外事業を組立てる張本人、山本賢一さんにお集まりいただきました。

我国が進める水ビジネスの海外進出において、FSの策定は、正に、その基本となるロードマップ作りとなるものです。その最初の方角性によって、我国が誇る世界最高水準の推進技術も含めた建設技術が、海外で適正な収益を得つつ活躍できるか、大きく左右されることになります。

まず、海外コンサルタント業務を担当されている3名の方から、差し支えない範囲で現在手掛けている調査業務の紹介を、自己紹介を含めてお願いいたします。

ベトナム・フエ市で 下水道の計画設計を

金井：日本水工設計の金井と申します。よろしくお願いいたします。現在海外事業部の部長をしております。名前は仰々しいですが、海外に取り組み始めて時間が経っていないことから活

動内容は日本工営さん、日水コンさんに比べ非常に貧弱な状況です。現在ベトナム・フエ市に3名下水道計画、設計担当者を派遣中です。

私自身の海外との関わりは4半世紀前にJICAの都市排水専門家としてタイ・バンコク市に赴任したのが始まりです。そのため今年のタイの洪水の状況は非常によく理解できます。帰国後、タイ・プーケット市下水排水プロジェクト、フィリピン・メトロマニラ上下水道Master Plan (以下、MP) 見直しプロジェクトの作業監理委員、その後国際建設技術協会で下水道プロジェクトの発掘、マニラの住宅団地排水の接触酸化法による処理実験等を経験しました。その後日本工営さんのもとでスリランカにおいてインドネシア津波復興支援プロジェクトに参加し、タイにおいて下水道工事の施工管理基準作成、インドにおいて下水道維持管理人材育成事前調査などに携わりました。

フーコック島(ベトナム)で 上下水道の設計業務を

田中：日水コン海外事業部の田中と申します。本日はよろしくお願いいたします。現在、私の携わっている仕事は、ベトナムの南のはずれにフーコック島というリゾート地があるのですが、JICAのPPP (Public Private Partnerships、官民連携) 案件で神鋼

環境ソリューションさんとJVを組み、一昨年の9月から上下水道の調査を実施しています。現在は第1次現地調査を終えて、概略設計のとりまとめ、事業費の算出、事業実施スケジュール案の策定を行っています。

その後は、昨年3月4月に第2次現地調査を行い、国内で最終レポート案の作成に入ります。

フーコック島の大きさは淡路島ほどで、ホーチミンからは飛行機で1時間ほど、白い砂浜が続く海辺や原生林、魚からつくる醤油・魚しょうなどが有名です。ベトナム政府はこの島の観光開発に力を入れておりまして、プーケットやバリ島のような国際的観光地を目指しています。

現地オフィスはフーコック島から東へ120km離れた、ベトナム本土のキエンザン省の省都ラックザーにありまして上下水道公社の一室をお借りしています。

ついでに、私の業務経験ですが、主に日本国内の下水道計画や管きよの設計、実施設計を経験してきています。海外業務に関しましては、エジプトでのJICAの下水道FSや南米コロンビアでの上下水道のODA案件に従事いたしました。ここ数年はもっぱらベトナムでODA円借款事業、経済産業省案件、JICA案件等に従事しています。

また、これまでの推進工法との関わりですが、計画・設計はもののこ